

[6] 作物別施用法（果樹）

Q6-6-3 せん定枝の堆肥化について教えてください。

A6-6-3 果樹のせん定枝は貴重なバイオマス資源であり、堆肥化して樹園地の土づくりに役立てるのが最も望ましい方法です。炭素率（C/D）の高いせん定枝を堆肥化させるには副資材として窒素源を混合して炭素率を低下させる必要があります。

青森県農林総合センターでは直径5～6 cm に細断したリンゴのせん定枝に発酵鶏ふん、石灰窒素を加えて良質な堆肥を作成しているので紹介します。

せん定枝チップ 100kg 当たり発酵鶏ふん 8.7 kg 及び石灰窒素 1.7kg を添加して積み込み、ほぼ1 ヶ月に1 回、少なくとも3 回切り返し行うことにより、6ヶ月後には仕上がりとなります。発酵鶏ふん、石灰窒素を加えたときの炭素率は 30 程度であり、腐熟促進に適した炭素率になったと判断されます。せん定枝1 m³あたりに換算すると、炭素率 30 程度になるような窒素源の投入量は発酵鶏ふんのみの場合は 70kg、石灰窒素を併用した場合は発酵鶏ふん26kg と石灰窒素5kg 程度になります。

この方法はリンゴのほかナシ、モモ等においても可能であり、作成方法は総じてリンゴの場合と大きな違いはないと考えられます。

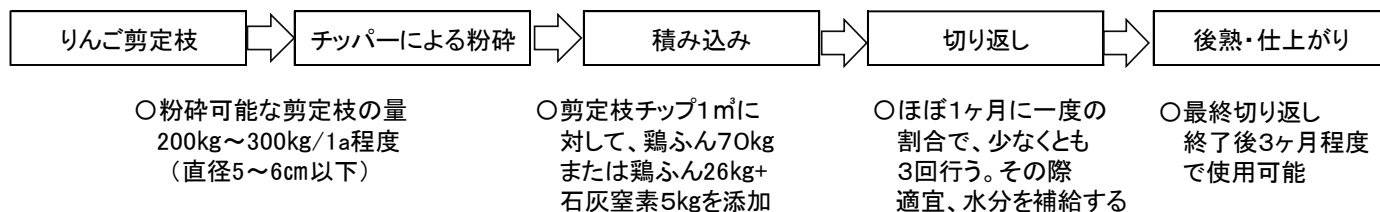


図6-6-2 りんご剪定枝の堆肥化方法

注) 鶏ふんなどの添加量はチップの粒径は比較的粗い場合は踏圧して、細かい場合は踏圧しない状態での1m³に対する量

(青森農林総セ: 石灰窒素だより141号)